

Tofuku-ji Temple Jorakuan  
とうふくじじょうらくあん  
**東福寺常楽庵**  
ぎやくでん ふもんいん  
**客殿（普門院）ほか2棟**

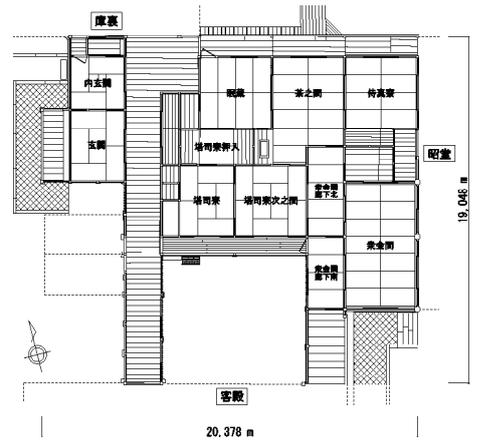
京都市東山区  
塔司寮（書院） | 文政6年(1823)  
裏門 | 江戸前期  
客殿（普門院） | 文政9年(1826)  
事業期間：平成30年9月～令和7年12月（予定）

東福寺は臨済宗東福寺派の大本山で、開基を撰政九条道家、開山を円爾として鎌倉時代に創建されました。

東福寺本山伽藍の北に位置する常楽庵は、円爾を祀る開山塔院です。一条実経が造営した円爾の常住庵に始まり、円爾没後にその塔所となったと伝えられます。建物のほとんどは文政2年（1819）焼失後の再建によるもので、庭園を囲むように配置される7棟の建造物が重要文化財に指定されています。

**塔司寮（書院）** **重文** 《修理中》

文政6年（1823）に建立された



塔司寮（書院）平面図（修理前）

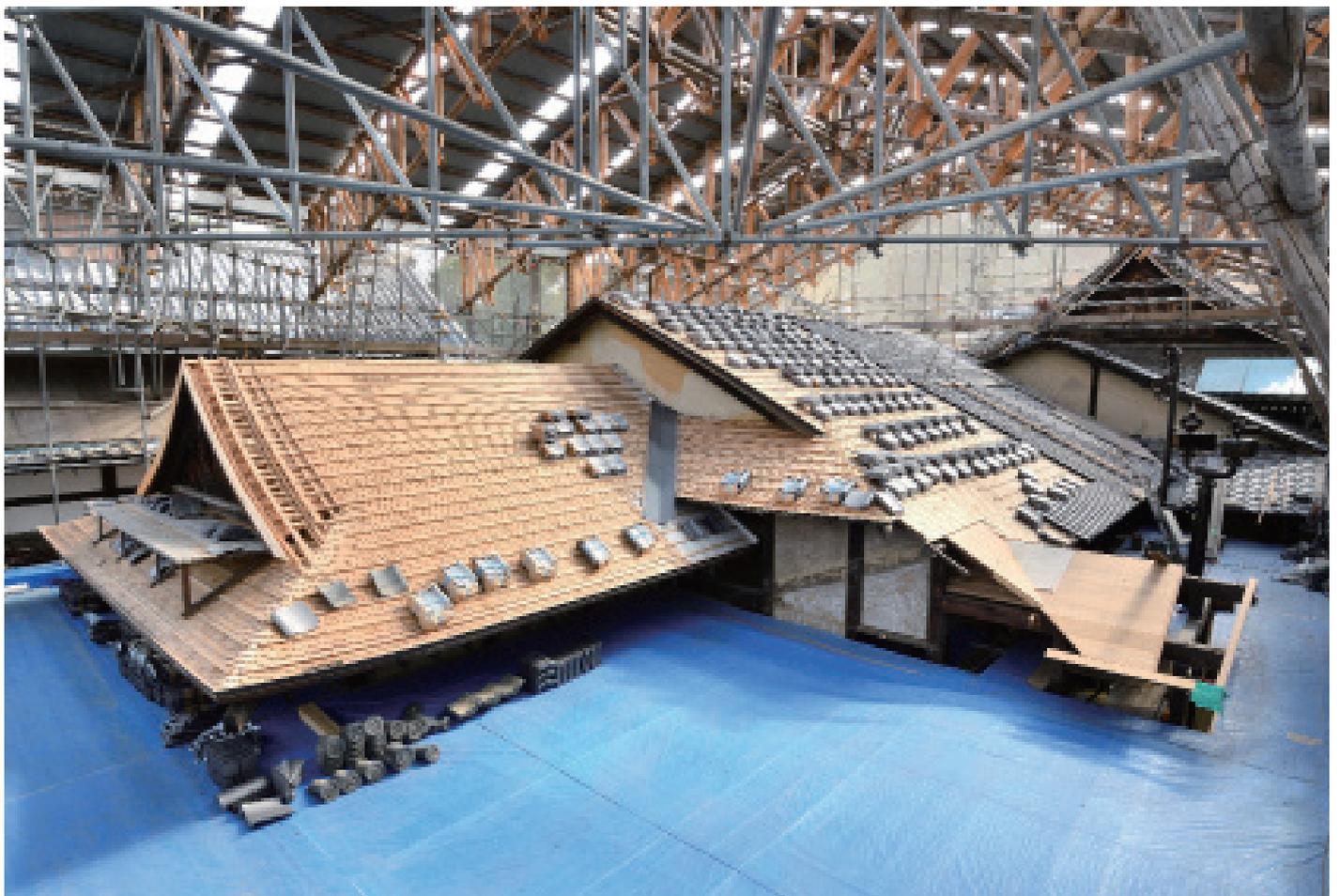
書院建築で、常楽庵を管理する塔司の居所としての機能のほか、玄関や法要の控室といった機能を併せ持ちます。建物は、西に玄関を設け、南に法要の控室となる「衆云間」などの公的空間、北に塔司の寝室となる「眠蔵」などの私的空間を配置する構成です。周囲は、昭堂、客殿（普門院）、庫裏と接続し、屋根は複雑な形状となっています。

**修理の内容**

屋根は雨漏りが生じ、木部では虫害や歪みが生じていました。このため、葺瓦葺屋根の全面葺替、虫害を受けた梁や床組部材の取替、軸部の不陸調整と建て起こし、天井の吊直し、耐震補強などを行っています。

保存修理の現場

東福寺 常楽庵客殿（普門院）ほか2棟



塔司寮（書院）屋根修理中の様子